

## 日韓比較映画史研究

# 「ラブ・レター」と 「パイラン」

2015年9月26日(土) 13:30～(開場13:00)

中野キャンパス 1号館 マルチメディア講義室  
先着50名様 参加費無料(予約は不要)

第1部 韓国映画「ラブレター パイランより」(116分) 上映  
第2部 講座「日韓比較映画史研究 / 「ラブ・レター」と「パイラン」」  
講師 ト煥模(湖南大学教授)、西村安弘(東京工芸大学芸術学部教授)

### 企画趣旨

1998年に金大中大統領が日本の大衆文化の段階的開放を宣言、日本の漫画の映画化や映画やTVドラマのリメイクが容易になった。直木賞作家の浅田次郎による短編小説『ラブ・レター』は、中国人女性と偽装結婚したやくざの許に届いた手紙を巡るストーリーで、「平成の泣かせ屋」と称される浅田の面目躍如たる小品として知られている。1998年森崎東が中井貴一、耿忠の主演で監督した「ラブ・レター」に続き、2001年ソン・ヘソンがチェ・ミンシク、セシリア・チャンの主演で「ラブ・レター パイランより」としてリメイクした。移民社会の抱える諸問題についても触れながら、同一の小説に対する日韓の二人の監督によるアプローチの相違を比較映画史の観点から考察する公開講座である。



韓国映画 / 2001年  
「ラブレター パイランより」  
監督：ソン・ヘソン 原作：浅田次郎  
出演：チェ・ミンシク、セシリア・チャン

### 講師

#### ト煥模(湖南大学教授)

博士論文「朝鮮総督府の植民地統治における映画政策」。  
「韓国人は日本映画をどのように受容してきたか」  
(['日本映画は生きている 第1巻'] (岩波書店、2010年))。

#### 西村安弘(東京工芸大学芸術学部映像学科教授)

映画学専攻。  
ポン・ジュノ監督「韓流映画のなかで」(['ユリイカ'] 2010年5月号所収)の司会を務めた。